

No.7 感染症の歴史 —— ペストとスペインかぜが変えた社会と医学

導入

14世紀のペスト（黒死病）はヨーロッパ人口の約3分の1を死亡させ、中世社会の崩壊と近代の幕開けを加速させた。1918年のスペインかぜは第一次世界大戦の戦死者を上回る5000万人以上を死亡させた。これらの感染症大流行は、医学のみならず、社会・政治・宗教・経済を根本から変えた。この講座では、ペスト・スペインかぜの歴史とCOVID-19を比較しながら、「感染症と社会変革」「パンデミック対応の教訓」を論述・面接で語れる力を習得する。

授業目標

- ペストの流行経路・社会的影響（封建制の崩壊・ユダヤ人迫害・検疫制度の誕生）を説明できる
- スペインかぜの疫学的特徴（W字型死亡曲線・第二波・情報統制）を論証に使える
- 歴史的パンデミックとCOVID-19を比較し、対応の教訓（早期検疫・情報公開・国際協力）を論じられる
- 「感染症が変えた社会と医学」を歴史・疫学・政策の3軸で600字論証できる

授業構成（90分）

時間	内容
0～15分	衝撃体験：ペストによるヨーロッパ人口減少のグラフで「感染症の破壊力」を体感
15～45分	ペスト・スペインかぜの歴史的経緯・社会的影響・医学的特徴の解説
45～70分	COVID-19との比較：対応の共通点・相違点・歴史から学べる教訓の整理
70～90分	面接応用：「感染症の歴史から医師として何を学ぶか」への論証型回答練習

課題

授業後：「歴史的パンデミックの教訓を現代の感染症対策にどう活かすべきか」を歴史・疫学・政策の3軸で論述（600字）を作成・提出。

備考

医・薬学部対応。医学史シリーズの集大成講座。No.6（スノウと疫学）との併用で感染症の医学史を体系的に学べる。